

結核とBCG接種について

◎ 「結核」という病気について

結核は、結核菌が人から人へ感染することで起こります。わが国の結核患者はかなり減少しましたが、まだ2万人以上の患者が毎年発生しており、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力はお母さんからもらうことができませんので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。特に乳幼児は結核に対する抵抗力が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎(ずいまくえん)になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

◎ BCG ワクチン (生ワクチン) について

BCG はウシ型結核菌を弱毒化してつくった生菌ワクチンです。BCG の接種方法は、管針法(かんしんぼう)といってスタンプ方式で上腕外側の2カ所に押しつけて接種します。それ以外の場所に接種するとケロイドなどの副反応が出ることがありますので、絶対に避けなければなりません。接種したところは、日陰で乾燥させてください。10分程度で乾きます。接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種したところをこすったり、ひっかいたりしないでください。



◎ BCG の接種時期

生後1歳に達するまで(通常、生後5か月から生後8か月に達するまでに接種しますが、地域における結核の発生状況など、固有の事情を勘案する必要がある場合はこの限りではありません)に接種します。なお、長期にわたり療養を必要とする疾病にかかったことなどにより、上記の時期に接種の機会を逸した場合、接種を受けられるようになってから2年間(ただし、4歳に達するまでに限る)接種を受けることができます。

◎ BCG 接種後の経過と副反応

接種後10日頃に接種したところに赤いポツポツができ、一部に小さいうみができることがあります。この反応は、接種後4週間頃に最も強くなりますが、その後は、かさぶたができて接種後3か月までにはなおり、小さなきずあとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG 接種により抵抗力(免疫)がついた証拠です。包帯をしたり、バンソウコウをはったりしないで、そのまま普通に清潔を保ってください。自然になおります。ただし接種後3か月を過ぎても接種のあとがジクジクしているようなときは医師にご相談ください。副反応としては、接種をした側のわきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。通常、放置して様子を見てかまいませんが、ときにただれたり、大変大きく腫れたり、まれに化膿して自然にやぶれてうみが出る場合があります。その場合には医師にご相談ください。

◎ 接種後の反応が早く出た場合



お子さんが結核にうつっていた場合には、接種後10日以内に接種したところに上記のような反応が起こることがあります(通常2週間から4週間後におさまります)。これをコッホ現象といいます。コッホ現象と思われる反応がお子さんに見られた場合は、接種を受けた医療機関を受診してください。集団接種の場合は、市町村の予防接種担当課に相談してください。また、お子さんに結核をうつした可能性のあるご家族の方々も医療機関を受診するようにしましょう。

[ウィンドウを閉じる](#)